

2. ワークショップの結果概要

前回の意見（過去から現在までの変化）を再確認したうえで、参加者全員で「性別によって生きる選択肢が限定されることのない未来」へジャンプ。その日常の暮らしをリアルに想像し、その日常に暮らす未来人になりきって、ワークを行った。

①未来の暮らしを教える

＞「性別によって制限されない暮らし」とはどのようなものなのかを、2022年に暮らす箕輪町住民へ教える。

【未来の暮らしはどのようなものか／主な意見】

●政治において

- ・首相、党首、知事など重要な役職に女性が就いていることが一般的になっている（性別による偏りが無い）

●仕事において

- ・業務時間は長くない（16時には帰宅できる、週休3日であるなど／仕事が短い分、家庭のことに時間を使える）

※技術の進歩（AI、ロボット、リモートワークなど）を受けて、少ない仕事で成果が出せるようになっている

- ・家庭でなにかあったとき、性別に関わりなく休みがとれる
- ・家庭のために堂々と仕事を休める（休むことが職場での待遇を左右しない）
- ・だれかが仕事を休んだときのバックアップ体制がしっかりしているため、仕事を休むことに罪悪感をもつことがない

※人材バンクなどの発達で、仕事を休むことが別の人の仕事につながるような仕組みができています

- ・仕事内容や待遇に性別での違いがない
- ・職場に子どもを連れていき、育児をしながら仕事をするのも当たり前になっている
- ・育児休暇が義務化されている
- ・育児休暇中に生活のできる保障制度が整っている
- ・仕事の負担が低く、仕事をしながらでも子育てに十分な時間を割けるため、子どもを預ける仕組みが簡易化している（延長保育のように預かり支援を充実させなくても、各家庭で子育てができるようになっている）

●教育／子育てにおいて

- ・ベビーシッターや保育施設の利用が無料になっている
- ・子育てサークルにいる男性が増えている
- ・子どもをだっこして歩いているお父さんの姿をよくみる
- ・オンラインで登校できるので学校選びの選択肢が広い
- ・学校の制服や通学カバンなどが男女別に規定されていない

- ・ 主要 5 教科だけの評価ではなく、生きていく力や個々人の特技なども評価される
 - ・ PTA の役員の男女割合が半々である
- 家庭において
 - ・ 仕事をする時間が短い分、家で過ごす時間が長くなっている
 - ・ 家族ひとりひとりが自立しており、それぞれが主体的に家事・育児などやるべきことをやっている（一方的に頼ることがない／全員が主体的に動いているので、家事を「お願いする」ことがない）
 - ・ 家族全員の仕事や学校のスケジュールが、家族全員で共有されていて、それぞれが協力しあい、忙しいときは互いにサポートしながら、家事をやっている
 - ・ 家事をサポートする技術が進み、家事の負担が減っている（掃除ロボット、ミールキットなど）
 - ・ 家庭のイベントや食事、家、車などさまざまなことを、家族で会議して決めている（だれかひとりに頼らない）
 - ・ 「家事や育児ができない」ひとは、異性からモテない
 - ・ 子どもになにかあったとき（事故、病気など）、お父さんがかけつけることも一般的（性別による偏りが無い）
 - 地域において
 - ・ 地域活動をする時間が増えている（仕事の時間が減っている／地域活動に参加するハードルが低くなっている）
 - ・ 役員に女性がいるのが一般的（性別による偏りが無い）
 - ・ 力仕事などは男性に頼るのではなく、プロの業者さんに委託している
 - ・ 子どもと一緒に参加できる地域活動が増えている
 - ・ 地域のスポーツチームは男女混成がほとんどになっている
 - ・ 地域で子どもを見守り育てている
 - 日常生活全般において
 - ・ 結婚や子どもの有無によって生き方が大きく限定されたり、周囲からの扱いが変わったりすることがない（結婚という制度に縛られない／色々な生き方をフラットに選べる）
 - ・ 同性婚、夫婦別姓などが一般的になっている
 - ・ 女性の生理について男性も理解している（子どものころから教わっている）
 - ・ 男女の割合が大きく偏る場所が少ない（男性だから／女性だから入りづらいような場面がない）
 - ・ 女性だけで夜に飲みに行くことが気軽にできる
 - ・ ネイルなどの（2022 年では女性のもののみみなされるような）趣味を男性も楽しんでいる

②箕輪町がまず変わるべきところを語り合う

>①の状態にある未来人として、2022年の箕輪町に暮らす人々に対し、まずここから変わればよいのでは、というアイデアやアドバイスを送る。

【箕輪町がまず変わるとよいところ／主な意見】

●政治において

- ・町議会議員の女性割合を条例等で強制的に引き上げる

●仕事において

- ・町の指導や補助によって、町内企業の男女の給料格差をゼロに近づける
- ・残業をできる限り減らすよう働きかける（役場での実践、町内企業への働きかけ、ノー残業デーなどのキャンペーン、企業への補助など）
- ・仕事の評価軸や評価方法を見直し、性別による不平等をなくせるよう促す（役場での実践、町内企業への働きかけ）
- ・企業のテレワーク導入を補助し、多様な働き方ができる環境づくりを支援する
- ・育休をとった男性の話をしきくなど、仕事と家をうまく両立している男性のロールモデルを地域で共有する

※以上の啓発にあたっては、先進的な国・地域の事例を紹介すると効果的

●教育／子育てにおいて

- ・「生きていく力」や、家事や育児をすることの大切さを、小さいときから学んでもらう（性別に関わりなく）
- ・ジェンダー平等の教育を充実させる
- ・子どものころから多様な生き方に触れさせる（体験教育など）

●家庭において

- ・家事や育児を主体的にする男性を褒める（そういう生き方が評価されるムードを地域でつくっていく）
- ・それぞれの家庭で家事（「名前のない家事」を含む）をリストアップし、誰がやっているかの現状を確認する（偏りがあれば少しずつ協力・分担し、偏りをなくしていく）

※家事管理アプリなど既存サービスも活用できる

- ・育児中の保障制度を町として充実させる
- ・家庭での家事負担軽減のための機器・備品の購入を補助する（テレワーク設備、掃除ロボット、食洗器など）

●地域において

- ・地域活動でやっている仕事をリストアップし、誰が何のためにやっているのか、そもそもやる必要があるのかなどを見える化する
- ・地域活動を見直し、どんな立場のひとでも参加しやすいように、地域活動の時間帯や内

<p>容を改善する（外部委託や、必要性の薄い活動をやめることも視野に）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・料理講習など、家事・育児のやりかたを学ぶイベントでの男性参加者を高める（内容や広報を工夫するなど） ・常会・区にオンライン端末を配備し、使い方を講習する（地域活動のための集会や情報共有をオンライン化し、さまざまな立場のひとが参加しやすいようにする） ・回覧板など地域情報の共有化を電子化していく <p>※「みのわメイト」が活用できる</p> <p>●日常生活全般において</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男性は／女性はこうあるべき」という偏った考え方から離れて生きているひとを応援する／称賛する（自由に生きてよいというムードを地域でつくっていく） ・結婚や子どもの有無に関わりなく生き方も選べる社会であるよう、教育・啓発を進める
--

【これから変わるために重要なこと】

＞ワーク後の意見交換を通じ、これまでに出了意見を以下5つに整理した。

重要なこと	具体策の例
①ひとりひとりの自立を促す (特定の性に頼らないように)	<ul style="list-style-type: none"> ・「生きる力」を身に着けられる教育・講習 ・男性／女性でないとできない地域活動をなくす
②理解を促す	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域活動の内容・役割分担の見える化 ・性別に関わりない教育・講習会の充実 ・相談窓口／アドバイザーの充実（男性でも相談できる）
③評価を変える	<ul style="list-style-type: none"> ・良いロールモデルの地域内共有（啓発） ・良い取組や生き方を賞賛する
④義務化・ルール化によって格差を是正する	<ul style="list-style-type: none"> ・議員や役員の女性割合の引き上げ義務化 ・地域活動の内容ややり方の改善
⑤保障を充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・育休への補助 ・学費や子育てにかかる費用の補助

以上